

APHS Singapore 2024 参加報告

八尾市立病院 消化器外科
丸山 南

日本ヘルニア学会国際委員会より奨学金を賜り、誠に感謝しております。ここに謹んで学会報告をさせていただきます。

私が APHS に参加させていただいた理由は、今年新潟で行われた第 22 回日本ヘルニア学会で、ヘルニア手術における解剖学や発生学の重要性とそれに基づいた術式について学び、もっとヘルニアの手術を理解し自分のものにしたいと思ったからです。また、日頃より鼠経ヘルニアのご指導を頂いている八尾市立病院の吉岡先生や内視鏡トレーニングにお付き合頂いている四谷メディカルキューブの今村清隆先生から、一緒に行こうと誘っていただいたことも後押しとなり、APHS に演題登録をさせていただきました。

今回の開催国である Singapore は多民族国家であり、民族、言語、宗教、文化などにおいて、さまざまな人々が共存している点が印象的でした。学会前日にそれぞれの居住エリアを散策したり、地元の人々が利用している寺院でお参りをしたり、レストランで食事することで、普段とは違う文化圏を体験することができました。



本大会では TAPP 術後の憩室炎によるメッシュ感染の一例について、デジタルポスターで発表させていただきました。実際の術中操作の工夫や術後の管理についてご質問頂き、術後合併症を減らすために何をすべきなのか、これまで以上に考えさせられる機会となりました。また、アジア各国から参加された先生方の発表を聴講し、多くの刺激を頂きました。懇親会では今村先生をはじめとする縫合グループの先生方と交流でき、大変有意義で楽しい機会となりました。

今回、日本ヘルニア学会の諸先生方のおかげで大変貴重な経験をさせて頂き、改めてヘルニア診療に貢献したいと感じました。2年後に大阪で開催される APHS にむけ、今回の経験をもとに日々精進したいと思います。

